



77 新潟県立海洋高等学校

●所在地 〒949-1352 糸魚川市大字能生 3040 番地

[最寄りの交通機関]

えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン能生駅下車、徒歩10分

北陸自動車道能生ICより5分

●電話 025-566-3155

●FAX 025-566-4781

●Eメール school@kaiyou-h.nein.ed.jp

●校長名 椎谷 一幸

●課程 全日制

●創立 明治32年4月

●生徒数 232名

(平成30年5月1日現在)



学科名	1年		2年		3年		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
水産科	62	18	/	/	/	/	62	18
水産資源科	/	/	22	17	27	10	49	27
海洋開発科	/	/	36	2	33	5	69	7
計	62	18	58	19	60	15	180	52

●入学者選抜 (参考：平成30年3月実施)

学科	一般選抜				特色化選抜			
	募集		学校独自検査	調査書と学力検査の比重	募集人数	分野	検査	実績要件
	学級	定員						
水産	2	80	個人面接 PRシート	4:6	8	科学：海洋・水産	個人面接	※1
						スポーツ：相撲(男子)		※2

※1 海洋・水産に関する研究・発表等において、都道府県レベル以上の大会で入賞の実績を有する者

※2 都道府県中学校体育連盟または体育協会加盟団体主催の都道府県大会ベスト8以上

学校目標

◎ 校訓

質実剛健 進取力行 水産報国

◎ 教育目標

人間として調和のとれた育成を目指し、一般的な教養を高め個性を生かす教育の充実に努め、社会の変化に主体的に対応できる能力を育て、望ましい職業観、勤労観を育成する。



大型実習船「海洋丸」(299トン)

◎重点目標

- ・生命、安全、健康に配慮した学習環境づくりを図る。
- ・基本的な生活習慣を確立させ、気力・体力・知力を充実させ、豊かな人間性の育成を図る。
- ・ICT活用と個に応じた指導や実習等により、学習意欲を高め、基礎学力の定着及び課題解決能力の向上を図る。
- ・産学官協働教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、目的意識を高めるキャリア教育の充実を図る。
- ・保護者・地域との連携の強化を図る。

目指す学校像のコンセプト

- 県内唯一の水産・海洋教育の実践をとおり、地域に貢献し、地域に活力を与え、地域に必要とされる学校
- 産学官協働教育等を活用し、海洋資源の持続的な活用を目指すなかで、生徒の学校生活満足度が満点となる学校
- 社会に出て、直ちに実務に携わることができる技術と知識を確実に身につけられる学校



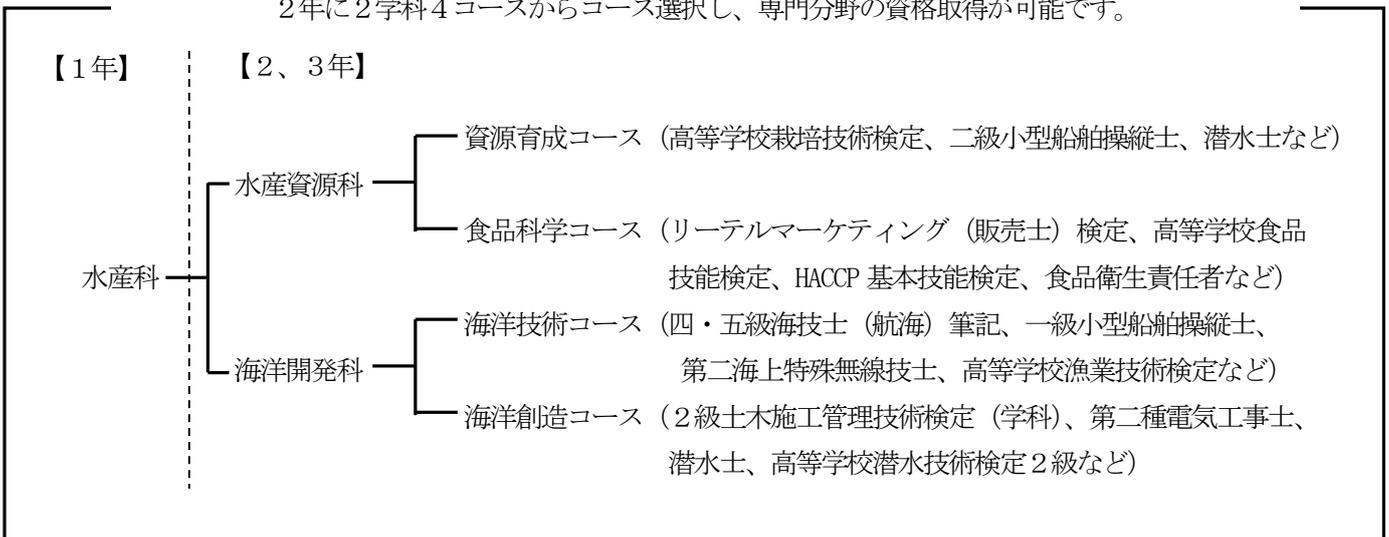
学校生活

校章は、星形の「水」という字を中心に、二つの「イカリ」が交叉している形をしています。「水」は水産業を示し、この水産業を中心に「イカリ」を交叉させることで、人間関係を大切に、お互いが協力し助け合いをする精神を表しています。また、大地にしっかりと根を張っている姿を示し、海に生きる人の勇気と協力を表しています。

新潟県唯一の水産海洋高等学校として、「船舶運航」「漁業」「養殖」「海洋土木」「潜水作業」「水産加工」などの広範囲にわたる分野のカリキュラムがあります。全国でも有数の水産海洋系専門高校として、県内のみならず、北陸・関東地区からも生徒を受け入れています。平成30年度入学生の約35%が遠隔地（上越地区以外）出身の生徒で、寮や下宿から通学しています。

水産海洋関連産業に従事するスペシャリストの養成を目標とした、実習による陶冶を重視した教育方針は、地元のみならず県内外からも信頼されています。水産海洋関連産業に就職して活躍を目指す人や大学等上級学校に進学して専門性を高めたい人等、確かな目標と目的を持ち、意欲的に学習に取り組む心豊かな若者の入学を待っています。

2年に2学科4コースからコース選択し、専門分野の資格取得が可能です。



●水産資源科

[資源育成コース]

有用魚類の種苗生産・放流や養殖に関する学習を通して、水産食料資源の増大および海洋環境の保全や海洋の持続的な利用に関わる産業の発展を担う人材を育成します。



<マコンブ収穫実習>

[食品科学コース]

水産加工品に関する知識と技術を化学的な観点から学び、HACCP 認定工場における実習を通して、徹底した安全管理システムによる水産加工品製造の方法を習得させ、食品産業の発展を担う人材を育成します。



<海外商談会商品PR>

● 海洋開発科

[海洋技術コース]

資源管理型漁業や船舶運航に関する知識と技術を習得させ、漁業生産活動や船舶の運航などの本県海洋資源の有効利用・管理・開発に関わる産業の発展を担う人材を育成します。主に沿岸漁業や内航船舶の業務に従事する後継者を継続的に輩出します。



<天測実習>

[海洋創造コース]

海岸の開発と環境保全、海洋エネルギー、海底資源、海洋構造物の工事や機械・電気設備などの知識や技術の学習を通し、海洋のトータルエンジニアを育成します。



<沖縄潜水実習>

<海のスペシャリストを育てる多様な教育課程と学習内容>

- (1) 始業は8時45分、終業は16時10分になります。多くの生徒が放課後も、部活動の他、進学や資格取得を目指して頑張っています。
- (2) 2学年への進級時に、進路希望に応じてコースの選択ができます。
- (3) 社会人としての意識を醸成するため、インターンシップ（就業体験）を実施しています。

始業	8:45
SHR	8:55～9:05
1限	9:15～10:10
2限	10:20～11:15
3限	11:25～12:20
4限	13:05～14:00
5限	14:10～15:05
6限	15:15～16:10
放課後	部活動・補習

● 進路状況(平成30年3月卒業)

【進学】 東海大学 東京農業大学 日本体育大学 福山大学 明治大学

新潟工業短大 清水海上技術短期大学校 波方海上技術短期大学校

宮古海上技術短期大学校 上越公務員情報ビジネス専門学校 上越テクノ

スクール 中央工学校 新潟食育・保育専門学校えぶろん 新潟高度情報専門学校 日本スクールオブビジネス

21 長岡こども福祉カレッジ 長野医療衛生専門学校 長野調理師専門学校 悠久山栄養調理専門学校

【就職】 陸上自衛隊 デンカ 笠原建設 カネカ 笹川建設 三元工機工業所 シンコーテック タナベ ハッピー

ひすい福祉会 田辺工業 イチコ リボン 頸城自動車 上越あたご福祉会 太平洋特殊鑄造 太陽誘電

Patisserie Riz-riz 水嶋海事工業 地下防水工業 新潟中央水産市場 山崎製パン 共同船舶 金宝丸

ちがさき丸 エイ・エー・ダ イボートセンターシメイト 甚一丸漁業 忠七丸 等

● 部活動の状況

【運動部】 野球 バスケットボール バレーボール バドミントン 山岳 相撲 柔道 カッター
ボクシング ダイビング 剣道

【文化部】 食品研究 海洋生物研究 芸術

【同好会】 ヨット 華道

<平成29年度の主な実績(運動部：北信越大会以上)>

○相撲部 選抜高校相撲弘前大会 団体優勝

全国高等学校相撲選手権 団体2位 個人2位

全国高等学校相撲選手権大会 団体5位 個人5位

選抜高等学校十和田大会 個人優勝

選抜高校相撲宇佐大会 団体2位

国民体育大会 団体5位

北信越相撲選手権大会 団体優勝 個人3位

○ダイビング部 全国水産・海洋系高等学校ダイビング技能コンテスト 女子の部優勝 男子の部2位
総合の部3位

○カッター部 北陸漕艇大会出場

全国水産・海洋高等学校カッターレース大会出場

● 学習成果等の状況(平成29年度)

- ・第10回海洋立国推進功労者表彰「海洋立国の推進に関する特別な功績」分野・地域部門受賞
- ・文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成」事業
- ・新潟県「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」事業

在校生の一言

「ここでしか学べないこと」

本校は、今まで知らなかったことなどを楽しみながら、詳しく学ぶことができる学校です。また、地方創生事業などの取り組みも行っています。私の学ぶ水産資源科食品科学コースでは、開発商品である魚醤「最後の一滴」の販売・マーケティングを国内外で行っています。皆さんも、海のスペシャリストを目指してみませんか。

● 寄宿舎(鷗雛寮:おうすうりょう)

遠隔地の生徒のために寄宿舎があります。

・男子寮

定員 60 名 (2～3 人部屋)

食事 月曜日から土曜日まで、朝・昼・夕食を寄宿舎でとります。

寮費 入寮費 10,000 円、月額 68,000 円 (平成 30 年 4 月現在)

※寮費は、経費および運営等の見直しにより、変更することがあります。

・女子寮 (糸魚川地区 3 校で共同利用)

定員 16 名 (2 人部屋)

食事 月曜日から土曜日まで、朝・夕食を寄宿舎でとります。(昼は弁当)

寮費 入寮費 10,000 円、月額 68,000 円 (平成 30 年 4 月現在)

※寮費は、経費および運営等の見直しにより、変更することがあります。



男子生徒寄宿舎



女子生徒寄宿舎

学校納付金

(平成 30 年度 1 年生の実績額)

1 入学金	5,650 円	6 1 学年教科書代金	約 7,500 円
2 授業料(全日制)	9,900 円 ※	7 制服代金	男子・女子: 約 52,000 円
3 生徒会費	12,000 円 (3,000 円×4 カ月)	8 体操着+靴	30,000 円 実習帽 2,100 円
4 PTA会費	6,000 円 (2,000 円×3 カ月)	9 1 学年クラス費	60,000 円 (10,000 円×6 カ月)
5 修学旅行費	80,000 円		

※ 平成 26 年度から所得制限により修学支援金が支給されない世帯 (市町村村民税所得割額の保護者 (親権者) の合算が 304,200 円以上の世帯) については、授業料を納めていただきます。なお、就学支援金支給の手続き等については、別途お知らせいたします。

※ 入学科等の減免制度については、事務室にお問い合わせください。

【テーマ】

地元漁業の維持・発展のための活動とおした水産専門人材の育成

【目標】

地域との連携を一層図り、地方の課題の解決を図るとともに、地域の活性化に貢献できる将来の水産専門人材を育成するため、以下の能力・態度の育成について取り組む。

(1) 課題解決能力の育成

国際的な視野を持ち、地域が直面する課題に対して、幅広い視点から解決しようとする能力と態度を育成する。

(2) マネジメント能力の向上

専門家と連携した実践を通じて、水産業に対応できるマネジメント能力を育成する。

(3) 自己有用感の向上

実践をおし、生徒に社会への参画意識を醸成させるとともに、その経験から自己有用感を向上させる。

【取組の概要】

(1) 資源育成コース

- チョウザメの養殖と飼育データ取得
- 食品科学コースと連携したチョウザメの魚肉加工法開発
- アクアポニックスによる養殖事業拡大検討

(2) 食品科学コース

- 開発商品（魚醤）の HACCP 認定と海外輸出
- HACCP 認定された水産加工品等の工程管理基準や標準衛生作業手順検証

(3) 海洋技術コース

- バイ貝及び甘エビの自主操業と事業モデル確立
- バイ貝及び甘エビの他海域の漁獲調査、バイ籠の敷設状態推定と漁具改良

(4) 海洋創造コース

- イシモズクの繁茂状況及び生育環境調査、エンジンポンプでの収穫
- イシモズクの塩蔵品開発と試食イベント・販売

【○：本校主体で行うもの □：地域との連携・要請等で行うもの】



【取組の成果】

- (1) 特産水産物の復活や、新たな特産物の生産への可能性を広げるとともに、地元の産業に目を向ける端緒となった。
- (2) 地元漁業者から指導を受けることによって、専門的な職業人としての自覚に目覚めた。
- (3) チョウザメの養殖をおして、新たな特産物の創出に貢献しようとする意欲が生まれた。
- (4) 本校開発の魚醤「最後の一滴」のハラール認証に向けた学習会を開催したことにより、日本はもとより外国への流通への可能性を感じ取り、経営的な感覚の醸成がなされた。

